



国際モダンホスピタルショー2019

INTERNATIONAL MODERN HOSPITAL SHOW 2019

参加レポート

2019年7月17日～19日の3日間、東京ビッグサイトにて国際モダンホスピタルショー2019が催されました。今年のテーマは「健康・医療・福祉の未来をひらく ～世代と国境を越えた豊かな共生を目指して～」です。弊社社員が情報収集のため訪問しましたので、簡単ですがレポートをお送りいたします。

■展示会概要

- 名称 :〔和文〕国際モダンホスピタルショー2019
〔英文〕INTERNATIONAL MODERN HOSPITAL SHOW 2019〔略称〕IMHS2019
- テーマ :健康・医療・福祉の未来をひらく
～世代と国境を越えた豊かな共生を目指して～
- 目的 :病院をはじめ、保健・医療・福祉分野における質の向上、
充実に役立つ機器、製品、システム、サービスなどを幅広く展示し、
最新情報の発信および情報交流の場を提供することにより、健康福祉社会の発展に寄与する。
- 主催 :一般社団法人日本病院会 / 一般社団法人日本経営協会
- 出展 :300社・団体



気 になったソリューション

全体的に、最近よく耳にするキーワードであるAI、IoT、VRなど革新的なものをはじめ、日常業務の負荷軽減を担う、RPA、RFIDソリューション等 各社興味深いものを展示されていました。その中でも気になったものをいくつかご紹介いたします。
※弊社の主観となります。詳細につきましては各メーカー様へお問い合わせください。

OPTIM社 AI Camera for Hospital

カメラで撮影された画像からさまざま分析を行う。
※下記はその機能例の一部



混雑検出



滞在時間分析



長時間滞在検出



動線分析
(ヒートマップ)



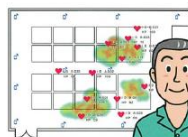
IoT



SATO社 バイタルモニタービーコン MEDITAG

ヒトやモノの状態を検出
→バイタル、ストレスレベル、転倒…

患者さんの状態をバイタルモニター
ビーコンで見守り



VR

JOLLY GOOD社



Guru Job VR

VR技術を用いて、リアルな手術室の空間を再現。名医の手技を間近で体験できる医療研修用VR

ケーブル

介護業界の人材不足は育成環境が整っていないことに一つの原因があると考えられているそうです。ケーブルは危険予知、認知症対応、不測事態対応等のトレーニングを行うための介護研修用VRサービスです。

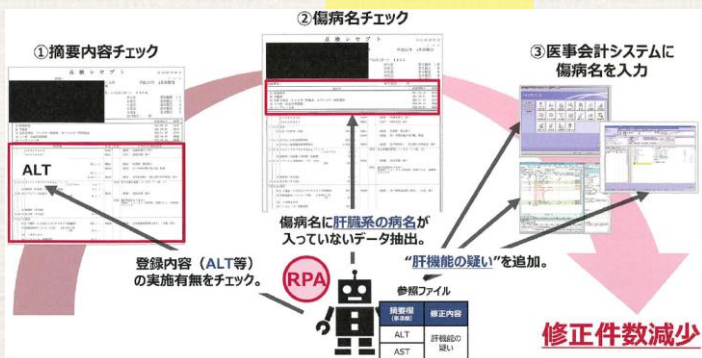


RPA

NTTドコモ社 WIN actor

パソコン上の定型業務をソフトウェアロボットが代行する仕組み
従来は難しかった、各ベンダーのパッケージ製品(電子カルテ、部門システム)との連携も可能となっているそうです。

人が行う定型的な業務を自動化することによって効率化を図り、本来やるべきことに専念することができます。



総括

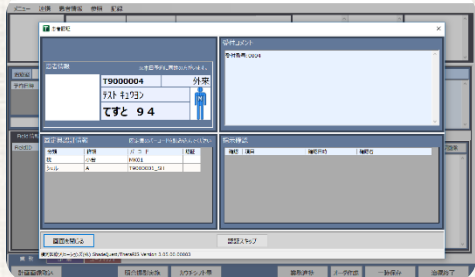
先進技術モノは、お客様、企業がタッグになってソリューションを生み出しているものが多くこれらは普段のお客様とのコミュニケーションからアイデアが生まれるのだと再認識しました。また現状では、これらのソリューションも想像できる範囲の技術であるように見えるものの、実際に現場に導入されていくことで、あらたなニーズも発生すると思われるため今後、さらに飛躍していくことは間違いないと考えます。

弊社の取り組みについてご紹介 ～放射線治療用固定具RFID認証システム～

放射線治療用の固定具について、RFIDを用いて患者認証を行う機能をご提供しています。横河医療ソリューションズ社製 治療RIS(ShadeQuest/TheraRIS)と連携し、シームレスな固定具認証が可能となっております。

治療RIS 固定具認証画面

治療RIS画面から使用予定の固定具情報をRFID読み取りアプリケーションへ送信



治療室

複数の予定固定具のRFIDタグを検知し、一括で認証処理を行う



RFIDリーダライタ



RFID 固定具&RFID